

中 学 校

平 成 4 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

社 会

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 4 年 度

教育研究員名簿（社会）

| | 区市町村名 | 学 校 名 | 氏 名 |
|-----------------------|-----------|---------------|-----------|
| 地 理 的 分 野 | 杉 並 | 向 陽 中 学 校 | 高 橋 清 吾 |
| | 荒 川 | 第 八 中 学 校 | 木 村 淳 夫 |
| | 練 馬 | 谷 原 中 学 校 | ◎加 藤 修 一 |
| | 足 立 | 蒲 原 中 学 校 | 浅 松 三 平 |
| | 葛 飾 | 双 葉 中 学 校 | 丸 山 了 久 |
| | 八 王 子 | 第 六 中 学 校 | 石 田 重 久 |
| | 昭 島 | 福 島 中 学 校 | 相 澤 信 二 |
| | 多 摩 | 貝 取 中 学 校 | 岩 田 敏 行 |
| 八 丈 | 末 吉 中 学 校 | 北 嶋 一 彦 | |
| 歴 史 的 分 野 | 墨 田 | 鐘 淵 中 学 校 | 竹 原 由 利 子 |
| | 目 黒 | 東 山 中 学 校 | 得 能 明 |
| | 大 田 | 志 茂 田 中 学 校 | 佐 藤 政 明 |
| | 世 田 谷 | 弦 卷 中 学 校 | 菊 池 俊 之 |
| | 北 | 桜 田 中 学 校 | ◎岡 田 秀 一 |
| | 府 中 | 府 中 第 八 中 学 校 | 棚 田 一 之 |
| | 東 久 留 米 | 中 央 中 学 校 | 霜 鳥 由 榮 |
| | 瑞 穂 | 瑞 穂 第 二 中 学 校 | 佐 藤 隆 夫 |

◎世話人

担当 教育庁指導部中学校教育指導課 指導主事 三 島 紀 人

生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育てる
指導内容の構成と指導方法の工夫

目 次

| | |
|--|----|
| I 主題設定の理由 | 2 |
| II 地理的分野 「生徒の興味・関心を高め、主体的な学習活動を促す指導方法の工夫」 — 適切な課題を設けて行う「首都・東京」の学習を通して — | |
| 1 主題設定の理由 | 3 |
| 2 研究のねらいと方法 | 4 |
| 3 研究の内容 (1) 指導計画 | 5 |
| (2) 研究授業 | 8 |
| (3) 研究授業の考察 | 11 |
| 4 研究のまとめと今後の課題 | 13 |
| III 歴史的分野 「生徒の興味・関心を高め、意欲的な学習活動を促す指導内容の構成と指導方法の工夫」 — 身近な素材を活用した文化の学習を通して大正デモクラシーを学ぶ — | |
| 1 主題設定の理由 | 14 |
| 2 研究のねらいと方法 | 15 |
| 3 研究の内容 (1) 指導計画 | 15 |
| (2) 研究授業 | 17 |
| 4 研究のまとめと今後の課題 | 24 |

生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習する態度を育てる 指導内容の構成と指導方法の工夫

I 主題設定の理由

国際化、情報化、高齢化、価値観の多様化等社会の変化が急速に進んでいる現在、生徒の生活環境やそれに伴う生活意識も大きく変わってきている。変化する社会に主体的に対応し、意欲的に生きようとする力を一人一人の生徒に身に付けさせていくことが、今日の中学校教育に強く求められている。

こうしたとき、社会的事象を学習の対象とし、「国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。」ことを目的とする社会科の果たす役割は、ますます大きくなっており、私たち社会科教育に携わる者の責任は重大であると考えられる。

中学生になると、知的好奇心が一層高まり、社会的事象に対する興味・関心も増大してくる。また、探究心が旺盛になるとともに、自分なりに判断をする力をもつこともできる時期でもあり、彼らは大きな知的エネルギーを内包しているといえる。一方、情報化社会のあふれ出る情報の中で、社会的事象に関する知識を得る機会も多い反面、情報の「受け手」に終始してしまい、自ら努力して情報を得ようとする事のない生徒も少なからず生まれているように思われる。このような中学生の特性を生かすとともに、中学生がおかれている状況を踏まえた社会科の授業を展開していくことが必要である。

従来多く見られた知識理解中心の授業では、生徒は受け身になりやすく、自己の興味・関心に基づき、意欲的に社会的事象を学習しようとする態度は身に付きにくい。

そこで、本研究においては標記の研究主題を設定し、

- ① 身近な社会的事象を取り上げて、生徒の興味・関心を喚起する教材の開発を行う。
- ② 生徒の意欲的な学習を促すため、単元の学習内容を再構成する。
- ③ 生徒の興味・関心や発想を生かして、主体的に学習する場面を工夫する。

などして、授業づくりを行った。

研究に当たっては、地理的分野と歴史的分野の二つの分科会に分かれ、適切な課題を設けて行う学習の指導方法を取り入れたり、学習内容の再構成の工夫を行ったりして、意欲的に学習する態度の育成を図った。

Ⅱ 地理的分野

生徒の興味・関心を高め、主体的な学習活動を促す指導方法の工夫 － 適切な課題を設けて行う「首都・東京」の学習を通して －

1 主題設定の理由

急激に社会が変化する今日、社会的事象に興味・関心をもち、自ら進んで学ぼうとする意欲を培い、豊かな思考力や表現力を身に付けることは大切である。その意味で、社会的事象を学習対象とする社会科の役割は大きい。しかし、現実の授業は、学習内容の精選の不十分さ、受験への対応などから教師主導の知識詰め込みの一斉指導になりがちであり、生徒は受け身になりやすい。そのため、社会的事象をしっかりと見つめ、課題を把握し、考えるという態度が十分身に付かないでいる。

新学習指導要領では、中学校社会科において、「生徒の主体的な学習を促し、社会的事象に対する関心を一層高める」ために適切な課題を設けて行う学習の充実を図ることが求められている。この学習の留意すべきところは、何が「適切な課題」なのか（課題の選択）、課題をどのように学習し、解決するか（課題の追究）、課題の追究結果をいかに発表するか（成果の共有化）などをよく研究し、生徒自らが意欲的に取り組める指導法を工夫していくことである。

地理分科会では、生徒の興味・関心を高めるには、どのように授業を工夫改善していけばよいかを検討した。その結果、適切な課題を設けて行う学習を実践し、生徒が主体的に学習を進めていくための指導上の課題を探り、それを明確にする中で改善点を考察し、生徒一人一人の興味・関心を高める指導の在り方を追求することとなり上記の主題を設定した。

学習の単元としては、学習指導要領の地理的分野の、2 内容「(2) 日本とその諸地域」の「ウ 日本の諸地域」のうち「関東地方」の学習を、わが国の首都として重要な位置を占めている地域「首都・東京」を中心に、東京との結び付きに視点をおいて再構成して扱うこととした。首都東京は、①社会の変化を敏感に反映し、様々な特色・問題点をもっており、②学校の所在地を含む身近な地域であるため、調査活動や資料の収集がしやすい。そのため、生徒が主体的に課題を設定しやすく、体験的な学習や資料を選択活用するなどの多様な課題追究の方法が可能であるからである。

2 研究のねらいと方法

(1) 研究のねらい

ア 適切な課題を設けて行う学習の手法を取り入れ、生徒の興味や関心を高め、主体的に課題を発見し、追究する学習を通して、資料活用能力や地理的な見方・考え方を育成するために、多様で創造的な学習活動が展開できるような教材の開発と指導方法の研究を行う。

イ 身近な地域「東京」に関心をもたせ、その都市問題を探ることによって、都市に住む人々の生活の特色を理解させる。さらに、都市化や国際化の進展が人々の生活に及ぼす影響について考察させ、これからの「東京」について考える態度を育てる教材の構成を図る。

(2) 研究の方法

上記のねらいを達成するため、以下の方法で研究を進める。

ア 第2学年の地理的分野の「(2) 日本とその諸地域」の「ウ 日本の諸地域」の「関東地方」を取り上げ、指導計画(7時間)を作成する。その際、「東京」における地域の人々の生活及び地域の特色や動向を「自然と人々」、「産業と地域」、「居住と生活」、「地域の結び付きと変化」の四つの項目からとらえ、さまざまな都市問題を課題化し、学校所在地の地域の実情なども考慮した指導方法を工夫する。さらに、関東地方との結び付きにも留意する。

イ 首都「東京」を取り上げて、適切な課題を設けて行う学習の指導計画を作成する。

(ア) 事前に生徒に対して、「東京のイメージアンケート」を行い、生徒一人一人がもつ東京のイメージを把握し、課題の設定の際に、生徒の主体的な学習活動が展開できるような工夫をする。

(イ) 第1時において学習課題の発見に必要な資料の提示の方法を工夫する。

(ウ) 第2時の学習課題の設定と学習計画の立案については、前半は教師による一斉授業、後半はグループ単位の学習とする。

(エ) 第3時以降は、学習課題の追究の方法、まとめ方、発表の方法などを考慮した指導計画を作成する。

ウ 資料を収集し、検討する。

(ア) 学習課題の設定・追究に必要な資料は、東京都や政府の刊行物、新聞、写真、ビデオなど教師側で十分に用意する。

(イ) 学習課題の発見・設定に必要な写真資料は、特に生徒の興味・関心を高めるのに有効な

ものを精選し、パネル化する。(都庁の都民情報ルーム映像コーナーにて、教材の写真を複製する。)

(ウ) 地図やグラフなどは、生徒に分かりやすく、特色のつかみやすい内容のものを提示できるように工夫する。

エ 第1時は、学習課題発見の時間である。生徒が進んで課題意識をもち、自分の学習するテーマに興味・関心をもてるかどうか、この授業がその後の学習活動の充実にかかわる大切な時間であると考え、2回の検証授業を行い、研究を深める。

3 研究の内容

(1) 指導計画

ア ねらい

(ア) 一極集中に伴う首都・東京の特色や都市問題を探ることによって、生徒の東京に対する興味・関心を高め、これからの東京を考える態度を育てる。

(イ) 課題の設定・追究・まとめ・発表を通して、主体的に学ぶ態度を育てる。

イ 配慮する点

(ア) 生徒の興味や疑問を引き出すことのできる資料を提示するとともに、それが、学習課題に高められるよう指導方法を工夫する。

(イ) 課題追究に必要な基本資料を準備するとともに、その他の資料や調査活動の方法について把握しておく。

(ウ) 調査活動において、資料を選択し、活用する学習活動を重視し、適切な指示・助言を行う。

(エ) 学習内容が高度になり過ぎたり、量的に過多にならないように、十分配慮する。

| 時 | 指導目標 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
|-----------------------|--|---|---|
| 1 (本 時) | <p>学習課題の発見</p> <p>首都・東京の抱える問題を考えさせ、学習課題の発見に努めさせる。</p> | <p>ア アンケートの集計結果を見て、気が付いたことを発表し、浮き彫りになった社会的事象の背景を考える。</p> <p>イ 東京への集中の原因を考える。</p> <p>ウ 東京への集中による問題点を考える。</p> <p>エ ビデオを見て、人口集中の様子を知る。</p> <p>オ 都市問題について、関心をもったこと、さらに気が付いたことを学習プリントにまとめ、それを発表する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 事前に「東京のイメージアンケート」を行っておく。 • 班ごとに話し合わせる。 • 東京の首都機能に触れる。 • 班ごとに話し合わせる。 • 気が付いた点をメモさせる。 |
| 2 | <p>学習課題の設定と学習計画の立案</p> <p>学習課題による学習グループ分けを行い、課題追究や資料収集の方法などの学習計画を立てさせる。</p> | <p>ア 学級全体の関心や気付きなどを知る。</p> <p>イ 黒板に提示されたカードを見て、自分の調査したい事柄を決め、調査カードに記入する。</p> <p>ウ 調べたい事柄ごとにグループ分けを行う。</p> <p>エ グループごとに話し合い、一人一人の学習課題を設定する。</p> <p>オ 学習課題の追究方法をグループごとに話し合い、一</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 前時に出された一人一人の関心・気付きを黒板に提示できるよう、あらかじめカード化しておく。 • 生活班にとらわれず、同じような学習課題をもつ生徒を同じグループにする。 • 学習課題追究の方法について例を挙げて説明し、追究の仕方を明確にする。 |

| | | | |
|-------------|--|--|---|
| | | 人一人の学習課題の追究方法を定める。 | <ul style="list-style-type: none"> 調査の視点に、関東地方との結び付きを入れる。 |
| 3 4 5 | <p>学習課題の追究</p> <p>学習計画を基に、新たに必要な資料を収集し、考察させ、生徒一人一人に学習課題を追究させる。</p> | <p>ア 資料を用いて学習課題を追究する。</p> <p>イ 学習課題のまとめをする。</p> | <p>ア 資料収集の方法を明確にし、学習課題の追究に必要な調査方法、調査活動の場等の指示を与える。</p> <p>イ 学習のまとめに向けて助言し、発表の仕方を考えさせる。</p> |
| 6 7 | <p>学習課題の発表と学習のまとめ</p> <p>発表の仕方を工夫させ、他の学習課題についての理解を促すとともに、本単元のまとめをさせる。</p> | <p>ア 各グループごとに発表する。</p> <p>イ 各グループの発表を聞き要点をワークシートに記入する。</p> <p>ウ 教師の指導により、学習のまとめをする。</p> <p>エ 新たに調べたいことや疑問に思ったことをワークシートに記入する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 模造紙、OHP、ビデオの活用など、発表方法を工夫するよう助言する。 発表時における聞く態度について注意を与える。 関東地方の視点を入れて、まとめる。 <p>例 筑波研究学園都市、交通網の発達に伴う内陸工業の発達、進む宅地化と近郊農業など。</p> |

ウ 評価

- (ア) 都市問題を通して東京に興味・関心をもち、今後の東京を考えることができたか。
- (イ) 東京という素材を通して、大都市の抱える様々な問題を理解することができたか。
- (ウ) 自ら課題を設定し、資料を収集・活用するなどして追究し、まとめ、発表することができたか。

(2) 研究授業

ア 主題 首都「東京」 関東地方 <学習課題の発見>

イ 本時の目標

- (ア) 首都東京の人口集中を通して、東京の都市問題を考えさせる。
- (イ) 東京の都市問題に興味・関心をもち、課題を追究しようとする意欲を育てる。

ウ 本時の展開

| | 学習内容 | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 | 資 料 |
|--------|-------------------------------|--|---|--|
| 導 入 | 東京への人口集中 | <p>1 アンケートの集計結果を見て気が付いたことを発表し、浮き彫りになった社会的事象の背景を考える。</p> <p>(東京に対するイメージを二つに分ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京のパネルを見る。 | <ul style="list-style-type: none"> 事前に「東京のイメージアンケート」を行う。 予想される生徒の反応 (人口が多い, 大都市, 高層ビル, 渋滞, 物価高など。) パリ, ロンドン, ニューヨークの人口比較資料をもとに東京の巨大さに気付かせる。 関東地方との地域的広がり留意させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書「東京・関東への集中」 資料『東京都市白書』 新聞資料 |
| 展 開 | <p>東京の便利な点</p> <p>東京の不便な点</p> | <p>2 東京への集中の原因を考える。</p> <p>発問 「なぜ、東京に人口が集中しているのか」</p> <p>3 東京への集中による問題点を考える。</p> <p>発問 「人口集中による問題点は何だろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 気付いたことを発 | <ul style="list-style-type: none"> 集中をもたらす東京の利点に気付かせる。 予想される生徒の反応 (働くところがたくさんある, 給料が高い, 交通の便がよい, 学校が多い, 遊ぶところが多いなど。) 東京の首都機能に触れる。 班で話し合わせる。 自由な発表を通して都市問題に気付かせる。 班で話し合わせる。 予想される生徒の反応 (ひどいラッシュ, 騒音, ゴミ, 土地の値段が高いなど。) | <ul style="list-style-type: none"> 地図帳「都心地図」 |

| | | | | |
|--------|-----|--|---|------------------------------|
| 展 開 | | 表する。 4 ビデオを見て、 人口集中の様子を 知る。 (ラッシュ、交通渋 滞など) | • ビデオを見てワークシートに気付いた点をメモさせる。 | • ビデオ 『東京巨大都市』 (NHK教育) |
| | | 5 都市問題について関心をもったこと、さらに気づいたことを発表する。 | • 関心をもったことをワークシートにまとめさせる。 | 平成元年2 月14日 |
| 終 末 | まとめ | 6 東京には解決しなければならない問題が存在すること、現在もその解決に向けて様々な努力がなされていることを確認する。 | • パネルを見せる。 • 次回、調べるテーマを決めることを予告しておく。 | • 教科書 「都市問題」 |

エ 評 価

東京の抱える問題に気づき、追究しようとする意欲をもつことができたか。

ウ 資 料

パネル写真(ラッシュ・地下鉄、交通渋滞・道路、高層ビル群・新宿、国会議事堂周辺、大川端リバーサイド、白鬚防災ビル、住宅地の中のキャベツ作り、多摩ニュータウン、ゴミ・夢の島) ビデオ 『東京巨大都市』 (NHK教育より)

ビデオ資料の内容…前半は、休みなく活動している巨大都市東京の様子を総合商社の活動やパリ、ニューヨークとの電力消費の比較を取り上げて紹介している。後半は、巨大化した東京の問題を、通勤ラッシュ・交通渋滞・ゴミ問題に絞って扱っている。通勤ラッシュでは数分間隔の時刻表、空から見た数百メートルおきに連なっている電車など、交通渋滞では数珠つなぎの車の列など、ゴミ問題では夢の島のゴミの山などを映しだしている。

(3) 研究授業の考察

ア 導 入

事前にアンケートを行い、集計をして東京に対する生徒のイメージをまとめておいた。集計結果をアンケートの得票の少ないものから発表し、多いものを残す方法をとった。生徒の東京に対するイメージで多かったものは「交通の便が良い。」「空気が悪い。」「店が多い。」「緑が少ない。」「東京タワー」「東京ドーム」などであった。出されたイメージをプラスのイメージとマイナスのイメージに分けさせ、アンケートの整理を図った。アンケートの一つ一つに注目させ、「なぜこのようなことが起きるのか。」という発問をした。生徒から「人口が多いから。」という意見が多数出された。

アンケート結果を画用紙に書き磁石で黒板に貼ったり、プラスとマイナスのイメージを生徒に分けさせ理由を発言させたりすることにより、東京に対する生徒の関心を高めることに成功したと思われる。また「関東、東京への人口集中」に気付かせるため、世界の都市との人口等の比較資料、教科書、パネルなどを使用した。

イ 展 開

(ア) 東京への集中の原因

「なぜ東京に人口が集中しているのか。」という発問をし、班で話し合わせた。これは導入でのプラスのイメージをさらに深めたものであるが、各班からは「就職口が多い。」「企業の本社が多い。」「遊び場所や新しいものがある。」などの意見が出された。これを板書した後、地図帳で首都機能を調べ、政治や経済の主要機関の位置を確認した。班で話し合うという活動によりクラスの雰囲気盛り上げ、発表することによりクラス全体の意見の集約を図ることができた。

(イ) 東京への集中による問題点

「人口の集中による問題点は何だろうか。」という発問をし、再度班で話し合わせた。これは導入でのマイナスのイメージをさらに深めたものであるが、各班からは「公害や犯罪が多い。」「通勤ラッシュがある。」「家が密集している。」「大気汚染がある。」「土地が高過ぎる。」などの発言がなされた。各班の発表と板書の後、ビデオ「東京、巨大都市(NHK)」を見せ、「通勤ラッシュ」「高速道路の渋滞」の様子を確認させた。視覚に訴えて、より都市問題を身近に感じさせることができた。その後、「自分の関心をもったこと、調べてみたいこと」をワークシートに書かせた。今まで提示された様々な事柄から自分の意見をまとめさせ、東京の都市問題について学習したい事項を発表させた。

「東京の情報量」「東京の電気量」「緑の分布」「大気汚染」などの意見が出された。発表する生徒の様子から、予想以上に都市問題に対する生徒の意欲が高まったことが感じられた。

ウ 終 末

「多摩ニュータウン」や「ウォーターフロント」のパネルを見せたり、「筑波研究学園都市」や「新交通システム」の話をしたりした。これにより東京には解決しなければならない問題がたくさんあるが、それに対して現在様々な対応が計画・実行されていることを確認させることができた。さらに、次時はグループに分かれて調べるテーマを決定することを予告し、ワークシートを回収した。

上記のことは以下のようにまとめられる。

(ア) 指導方法の工夫

- ①事前にイメージアンケートをとり、活用し、学習への動機付けを図った。
- ②クイズ形式でカードを提示し、生徒の興味・関心を喚起した。(資料提示の工夫)
- ③イメージカードを黒板に貼ることで、授業の流れを明確にした。
- ④パネルやビデオを活用し、視覚的な効果をあげた。(視聴覚資料の活用)

(イ) 学習形態の工夫

- ①イメージカードを生徒自身に黒板に貼らせ、学習活動を活発化させた。
- ②班活動を取り入れ、生徒の学習意欲を高めた。

(ウ) 指導過程の工夫

- ①生徒が発見したプラスイメージが、次には問題点としてマイナスに転じるという展開方法を用いて、生徒に新鮮な興味をもたせるようにした。
- ②班での話合いの結果を発表させる時に、一人一人の意見が取り入れられるように発表の方法を工夫させた。また、同じ意見をもつ生徒に挙手をさせた。

イメージアンケート、パネル、ビデオ、ワークシートを活用することで、生徒の興味・関心を引き出すことが十分できた。また、班での話合いや発表によりクラス全体の雰囲気活性化させたことは、学習課題を設定する上で非常に効果的であった。

本時の反省としては、生徒が課題を設定する上でビデオの影響を受ける傾向がある点が挙げられる。ビデオの構成を検討するなどして、生徒が自ら意欲をもって課題を見付けるようにより一層工夫することが今後の課題である。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

地理的分野の分科会では、「生徒の興味・関心を高め、主体的な学習活動を促す指導方法の工夫」を主題として研究を進めたが、この研究から次の点を明らかにすることができた。

ア 社会的事象に対する興味・関心を高めるうえで、身近な地域を素材として取り上げることとは効果的である。

本研究では、「首都・東京」を取り上げた。生徒にとっての生活の場であるため、学習内容を具体的にイメージさせることができ、学習活動のなかでも、個々の生徒の知識を生かすことができるため、活発な授業を展開することができた。

イ 適切な課題を設けて行う学習を通して主体的に学習する態度を育てることができる。

ウ 学習課題の発見の時間（第1時）では、アンケートやワークシート、ビデオやパネル写真を利用し、班での話し合いを取り入れ、生徒一人一人の興味・関心をできるだけ生かそうと試みた。これらの工夫は、生徒の興味・関心を喚起し、主体的に課題を追究する意欲を高めるうえで効果的であった。

エ 課題の追究、まとめ、発表では、聞き取り調査を行ったり、ビデオを活用したり、将来の東京の姿を想像してイラストに描いたりするなどグループごとに工夫がみられた。グループという小集団で学習することにより、生徒一人一人の能力、適性を生かすことができた。

オ 本研究では、「東京の都市問題」を課題として設定した。ゴミや交通渋滞など身近で切実な問題であるため、生徒は自分の問題として真剣にとらえ自ら進んで課題に取り組み、調査活動においても豊富な資料を収集することができ、意欲的に課題を追究することができた。

(2) 今後の課題

ア 身近な素材として「首都・東京」を取り上げるためには、各学校所在地の地域的特性を的確に把握した上で、学習内容との関連を図る必要がある。

イ 適切な課題を設けて行う学習を実施するためには、生徒一人一人の実態や、地域や学校の実情に配慮して、実施時期や担当する授業時数、取り扱う単位について、各学校で十分検討するとともに、図書室や資料室の整備、映像資料の収集、パソコンの利用など主体的に学習していくための条件を整えることが必要である。また、学習に遅れがちな生徒等、配慮を要する生徒に対する指導法の工夫をするとともに、日頃の学習においても、生徒の主体性が育つように、実践を積み重ねていくことが大切である。

II 歴史的分野

生徒の興味・関心を高め、意欲的な学習活動を促す指導内容の構成と指導方法の工夫 ー身近な素材を活用した文化の学習を通して大正デモクラシーを学ぶー

1 主題設定の理由

歴史的分野の学習において、私たちは、学習内容の精選の不十分さや生徒にとっての用語の難しさなど、多くの問題を抱えながら日常の指導に当たっている。そのため、ともしれば教師主導の一斉指導による知識注入が中心となり、授業は講義形式の単調なものになりやすい。

しかし、生徒を取り巻く新しいメディアを活用した授業の工夫と、教材の創意工夫によっては、聞いて、触れて、感じるなどの五感に働きかけて学び得る学習過程をつくることができ、また、生徒が意欲的に活動する場面のある授業も生み出すことができる。

今回の研究では、学習指導要領の「(8) 二つの世界大戦と日本」の「イ 大正デモクラシーと文化の大衆化」を取り上げ、世界と日本の激動の歴史を事実の羅列ではなく、生き生きとして学習主体である生徒が学ぶことができるよう、その指導の在り方に取り組んだ。「大正デモクラシーと文化の大衆化」の単元で授業の工夫と教材の開発をどのように行うかを探るなかで、その単元構成を身近な素材を活用した文化の学習から入っていくことにした。生活文化の学習は、その学習を通してその時代を理解するという、歴史学習の重要な要素である。大正デモクラシー期の都市の文化は、そこに今日の都市の生活文化の原型を見ることができ、生徒が身近なところから歴史学習に入れる教材である。また、その文化様相を学ぶことから大正期の人々の生活が理解でき、人々の生活の基盤にある政治、経済、社会全体の風潮も学ぶことができる。普通選挙運動に象徴される大正デモクラシーの特徴である国民の「主権者意識」の高揚が、実際にはどのような生活文化のなかで生まれどのように展開していったのかという観点を持ちながら、創意ある指導方法の工夫と教材の開発に取り組むことにした。

文化から入っていくという単元の指導内容の構成は、生徒にとって身近な教材を用意できるだけでなく、基盤にある政治、経済等への理解へとつなげていく歴史教育の一つの方法だと考える。この方法の重要なことは、学習指導要領の「3 内容の取扱い」の(1)のウで生活文化を重視していることから理解できる。そして、この方法を、ともしれば事実の羅列や講義調の授業に終始しがちな「大正デモクラシーと文化の大衆化」の単元で試みることにした。

2 研究のねらいと方法

(1) 研究のねらい

- ア 学習の主体者である生徒の興味・関心を高め、意欲を喚起する指導方法を工夫する。具体的には、生徒の日常生活を取り巻く映像、写真、新聞などや、地域史などの身近な素材を活用する。
- イ 生活文化の学習から入る形に単元の指導内容を構成し、時代の政治、経済、社会風潮という全体像が分かりやすく理解できるようにする。

(2) 研究の方法

- ア 先行研究について調べ研究する。
- イ 文献収集を行い、映像資料を入手して、それらを活用する。
- ウ 5時間分の指導計画を作成し、研究授業を行う。
- エ 研究授業においては事後の生徒の感想を取り入れ、次の授業に生かす。
- オ 大正文化の学習においては、今日の都市生活の原型を見いだすべく、当時の映画、ポスター、新聞、雑誌、衣、食、住、生活機器、ラジオ番組、カルピスやキャラメルなどのおやつ、スポーツなど幅広く身近な素材を収集し、活用する。

3 研究の内容

(1) 指導計画

ア ねらい

- (ア) 単元の指導内容の構成は、人々の生活文化の学習から入り、生活の変化を捉えさせ、さらに、社会運動の高まり、普通選挙の実現というように、文化から政治、経済、社会風潮の学習へとつなげていくことにより、その時代全体を理解できるように工夫する。
 - (イ) 文化の学習においては、親しみやすく五感に訴える素材を活用して、生徒の興味・関心・意欲を高める指導案をつくる。
 - (ウ) 生活文化の学習を導入として、人々の主権者意識がどのようにつくられていったのかを、第1時から第5時までの授業を通して理解できるような指導計画となるよう工夫する。
- #### イ 留意点
- (ア) ワークシートを活用して生徒が学習内容を整理して理解できるように工夫し、知識や理解の定着を図る。
 - (イ) 資料の収集においては、生徒の五感に強く訴えるものが集められるように配慮する。

ウ 単元の構成

第1時 大衆文化の発達……映画やラジオ・新聞などのマス・メディアを中心に扱い、大衆の地位向上に重点をおく。

(映画の普及、ラジオ放送の開始、童謡・童話、少年雑誌、流行歌、スポーツの普及)

第2時 人々の生活の変化……食生活等家庭生活(食卓・生活用品)などを扱い、サラリーマンの増加や生活の変化を学ぶ。

(衣食住の変化、家庭生活の合理化、東京圏の拡大、大正人の一日の生活)

第3時 社会運動の高まり……ワークシートを使って作業学習を取り入れ、生徒の意見を活用して社会運動が組織的運動へと高まっていったことを学ぶ。

(労働争議、小作争議、女性解放運動、水平運動、社会主義運動)

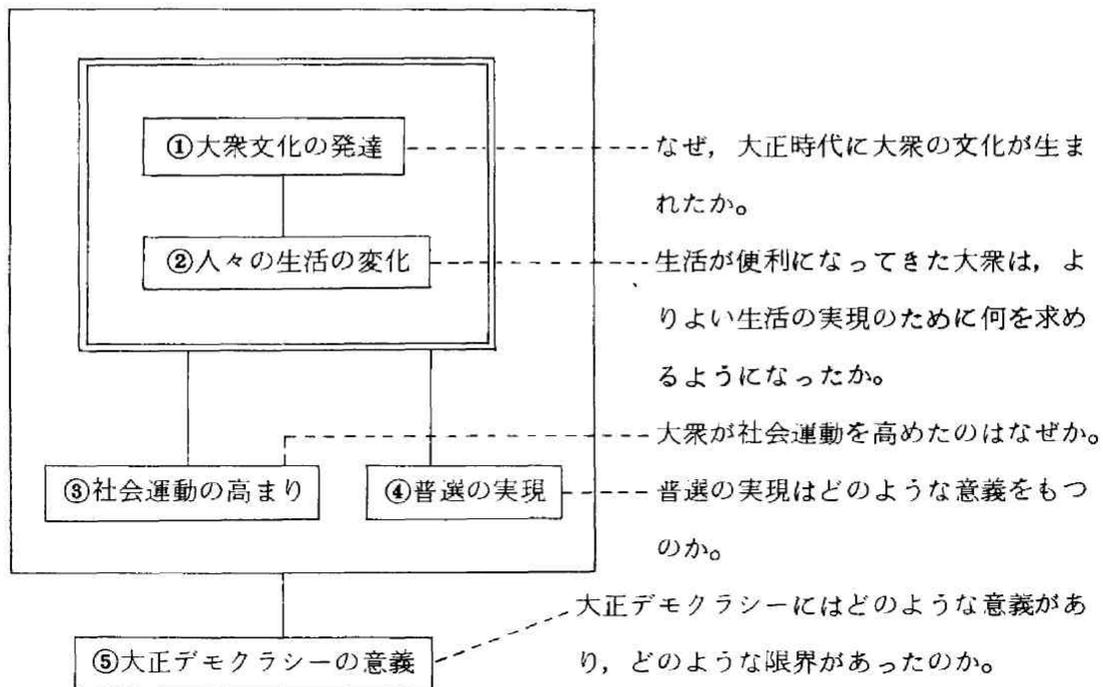
第4時 普通選挙制の実現……生活の向上を求める要求が、民本主義思想に基づき普選運動や政党政治実現への運動に発展していった様子を学ぶ。

(護憲運動、民本主義、政党政治の実現、普通選挙制の実現)

第5時 大正デモクラシーの意義……関東大震災や治安維持法の成立を扱うとともに、ワークシートを使って大正デモクラシーの意義や限界を確認する。また、個々の生徒の感想や意見を出させまとめる。

(関東大震災、治安維持法、大正デモクラシーの意義とその限界)

エ 指導内容の構成図



(2) 研究授業

A 学習指導案 (第1時)

ア 主 題 「大衆文化の発達」

イ 本時のねらい

(ア) 大正から昭和初期にかけての大衆文化について興味・関心をもたせる。

(イ) なぜ、ラジオや雑誌・流行歌などが人々の間に広まっていったのかを考えさせる。

ウ 本時の展開

| | 学習内容 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 | 資 料 |
|-----------------------|--|--|--|---|
| 導 入 5 分 | 松竹蒲田 撮影所 | 1 地図を見て本蒲田公園 の場所を探す。 2 大正～昭和初期にかけ て、現在の本蒲田公園付 近にあった建物は何か予 想する。 | • 身近な場所を提示するこ とにより興味・関心を喚 起する。 • 画面を見ながら考えさせ るが、解答が出ない場合 はヒントを与える。 • パネルで興味を深める。 | • 地図 「蒲田近辺」 • 写真 「松竹蒲田撮 影所」 • パネル |
| 展 開 40 分 | ○映画の 普及 ○ラジオ放 送の開始 ○童謡・ 童話 ○雑誌 ○流行歌 人気歌手 レコード ○スポーツ の普及 | 3 資料を見て、映画の歴史 について知る。 4 ビデオを見て、当時の 映画に触れ、感想を出し 合う。 5 写真を見ながら、大正 時代に発達したマス・メ ディアについて考える。 6 「ラジオ時間表」を見 て、当時のラジオ番組を 調べる。 7 ①～③のそれぞれの時 間にはどのような放送が 行われていたのかを予想 し、発表する。 ①子供の時間 ②音楽の時間 ③スポーツの時間 | • 映画の普及について気付 かせる。 • 現在の映画との違いにつ いて考えさせる。 • 写真により、雑誌とラジ オの存在に気付かせる。 • 新聞やテレビについては 補足説明を行う。 • 特に、①子供の時間、② 音楽の時間、③運動の時 間に注目させる。 • 自由に発表させながら、 大衆文化について一つ一 つ確認していく。 • 童謡や童話、雑誌『赤い 鳥』や『少年倶楽部』な どに触れる。 • 流行歌の存在に気付かせ る。 • 人気歌手やレコードにも 触れる。 • 様々なスポーツ放送がな されたことにより、スポ ーツが大衆化されていっ たことを理解させる。 | • 映画の歴史 • ビデオ映画 「キッド」 5分 • 写真 「大正時代の 家庭風景」 • ラジオ放送 時間表 • 写真 『赤い鳥』 『少年倶楽 部』復刻版 • カセット 「カチューシ ャの唄」 • プロマイド • 写真 「全国中等学 校野球大会」 • オリンピッ クの歴史 |
| ま と め 5 分 | | 8 なぜ、大正時代に大衆 文化が発達したのか、自 分の考えをまとめる。 | • 民主主義が発達したこと や生活が便利になったこ とを考えさせたいが、無 理に結論を出さず、この 単元全体の課題とする。 | |

エ 評価

映画・ラジオ放送・雑誌・音楽・スポーツなど具体的なものについて、文化の大衆化の
ようすを考えることができたか。

オ 研究授業の考察

本時は、単元「大正デモクラシーと文化の大衆化」の指導内容を再構成した第1時である。現在の生徒の生活と直接関係の深い「大衆文化」の学習を通して、大正時代に興味・関心をもたせることが大きなねらいである。ねらいの達成のため、生徒の五感に訴える教材や資料を準備し、有効に活用することに重点を置いた。

(ア) 導入について

導入では、身近な地域を取り上げ、生徒に興味・関心を喚起させようとした。地図や写真を提示しながら「松竹蒲田撮影所」について触れ、大田郷土博物館から借りたパネルを使用して、興味を深めさせた。これにより、授業の最初からクラス全体が活気づき、一人一人の関心が高まったようである。授業後も熱心にパネルに見入っている生徒も多数いた。身近な話題を導入に取り入れる方法は、成功だったと思われる。しかし、いきなり地図を提示したことにより、戸惑いを見せた生徒もあり、もう一工夫の必要を感じた。

(イ) 展開について

導入を受けて、まず、映画から大衆文化を把握させようと試みた。自作の資料やビデオを活用しながら授業を進めたが、どの生徒も大いに関心を示した。特に、当時の活動写真「キッド」の鑑賞は、事後アンケートでも生徒に大変好評であった。「大衆文化の発達」の学習において、映画は最適な教材の一つであることが実証された。

映画以外の大衆文化については、「ラジオ放送時間表」を使用しながら授業を組み立てた。その際、写真や実物・音声など様々な資料を提示しながら授業を進めたが、やや資料が多すぎた感があった。資料が豊富にある場合、いかに精選して活用するかが、今後の大きな課題である。

(ウ) 整理について

本時は、単元全体の導入の時間でもある。そこで、「大正時代に大衆文化が発達したのはなぜだろう。」という課題を与え、一人一人に予想させることにした。一部の生徒から「人々の生活に余裕ができた。」「デモクラシーの発達」などの意見が出され、次時からの学習につなげることができた。ただ、設問の仕方を工夫すれば、もっと多数の生徒が予想できたと思われる。

事後アンケートの結果、「大正時代に興味をもった。」「大正時代が身近に感じた。」「写真やビデオがあり分かりやすかった。」などの感想が多数出された。文化を最初に扱い、生徒に興味・関心をもたせるという本時の目的は、十分達成できたと思われる。

B 学習指導案（第2時）

ア 主題 「人々の生活の変化」

イ 本時のねらい

(ア) 大正時代の大量の、生活向上の願いが、都市の発達や衣食住の合理化を促したことを理解させる。

(イ) 人々の、主権者として参政権獲得をもつようになってくる土壌として、生活の向上があったことを理解させる。

ウ 本時の展開

| | 学習内容 | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 | 資 料 |
|---------------|---|---|--|---|
| 導入 10分 | 大正時代の生活 | 1 当時の邦画『文化病』（大正14年制作・島津保次郎監督）のあらすじから当時理想とされた生活がどんなものか考え、大正時代の生活について関心をもつ。 | <ul style="list-style-type: none"> 生徒に積極的に発言させ、そこから授業に入っていくことに心がけ、解答は授業の中で示していく。 写真や『ささえさん』の漫画を利用し、生徒に大正時代の生活に関心を起こさせ、そこからの意見も出させていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 映画『文化病』のあらすじ 「ちゃぶ台」「文化住宅」の写真 漫画『ささえさん』の住宅とちゃぶ台での食事風景の絵 |
| 展 開 30分 | <ul style="list-style-type: none"> ○食生活の変化 ○家庭生活の合理化 ○東京圏の拡大 | <p>2 当時の人々が洋風の生活に憧れ、その合理化された生活を目指していたことを、菓子類を中心に食文化の中から理解する。</p> <p>3 ちゃぶ台や電化製品が広まったことにより、家庭生活が合理化されていったことを理解する。</p> <p>4 東京圏が拡大していったことを地形図や人口の変化から読み取る。</p> <p>5 変化の原因となっているものを地図やグラフの中から読み取り、新興の住宅地にどのような人々が住むようになってきたかを考え、現在の市街地やビジネス街がつくられ新たな東京圏が形成されていった時期についても理解していく。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 身近なものとして理解させていくためにカルビスやキャラメルを実際飲食させ、そこから感じた様々なことを発言させながら、洋風化に結び付けていく。 新しい製品が出てきたことにより生活がどう変化していったか、生徒に考えさせる。 事前に生徒に地形図を着色させておき、その地図を視聴覚機器を利用し確認しながら生徒に意見を発表させていく。 鉄道の開通や通勤者数のグラフなどの地域に関連した資料を利用し、地域が発展してきた時期や都心との関連に気付かせる。 サラリーマンの生活に注目してまとめていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 資料「当時の東京の兵隊さんが好きな食べ物」 カルビスの当時の広告 電化製品の写真 電灯数の伸長のグラフ 明治42年、大正15年、昭和12年の1/10000の地形図 東京の人口グラフ 私鉄（玉川電気鉄道）の開業についての資料 玉川電気鉄道の乗降客の変遷グラフ |
| まとめ 10分 | 大正人的一天 | 6 第1時、第2時の内容をもとに大正時代の人々の生活を、ある家族の一日の生活に仮託し、ワークシートでまとめ直しながら確認を行う。さらに、生活が向上してきた人々が次に何を求めるようになったかを考え、今後の授業の導入とする。 | <ul style="list-style-type: none"> 架空の家族を設定し、その家族の一日という形で、今まで習った文化や生活をまとめさせる。 授業の中では触れなかった文化や生活のことなどはワークシートのなかで示していくようにする。 まとめと課題は今後の授業の導入となっていくことを前提に設定し、分かりやすい設問に心掛ける。 | 自作の『大正人的一天』のワークシート |

エ 評価

(ア) 大正時代に、大量の生活向上の願いから様々な生活の変化が起きていったことを、身近な教材の中から理解することができたか。

(イ) 社会運動や普選運動の学習の前提として、大量の生活文化の様子が理解できたか。

オ 研究授業の考察

導入では、前時の授業を受け、映画の話題から生活の変化へ興味をもつようなものをと考え、映画『文化病』のあらすじを利用した。さらに、生徒の興味と関心を深めるために漫画『さざえさん』を取り上げた。映画のあらすじからもいい意見が多く出されたが、漫画を使うことでより多くの生徒が関心をもって授業に臨むことができたと思う。ここで授業への関心を引きつけることができ、おおむね導入としての目的を達成したと思われる。

展開では、まず生徒の関心をより深めていくために、大正期の食文化の変化を取り上げ、カルピスを飲みキャラメルを食べるということを行った。これは現在につながる食文化の洋風化が大正時代に始まることを具体的に理解させようということからである。このことで生徒の関心を高め多くの意見を引き出すことができた。生徒からも「大正時代について関心を持つことができた。」「何も分からないところから理解しろといわれるよりずっと理解しやすかった。」などという意見が寄せられた。

また、大正時代の東京圏の拡大については身近な地域を取り上げ、地形図の変化から地域の変化を読み取ることを行った。またグラフを読む作業などを入れることにより、より理解しやすく授業を組み立てることができた。生徒も地図の着色により住宅が増加していることに気付き、また、そのことが鉄道に影響されているということも理解できたようであった。さらに、乗降者数の変遷グラフから1923年の関東大震災以降に住民が増えていることを読み取ることもできた。このことから資料の選択は適切だったと思われる。

本時は第1時の「大衆文化の発達」とともに、今後の『社会運動』や『普選運動』を学ぶ授業の前提となるものなので、まとめについては時間を多く取り、ワークシート『大正人の1日』に第1時と第2時の内容を合わせた形でまとめさせるようにした。このまとめを大部分の生徒が記入することができ、何人かの生徒の中から大衆が次に求めていくものとして「自由」「平等」「選挙権」という意見が出され、十分に授業の目的が達成できたと思われる。

全体としては生徒の反応は良好であり、「もっと詳しく大正時代を学んでいきたい。」とか「楽しい。」「理解しやすい。」という意見も多くあり、ビデオや身近な教材を使った授業を今後行ってほしいという意見が多数あった。このことから、身近な素材や生活文化の学習から大正デモクラシーの時代について理解するという本時のねらいは達成できたと思われる。

ただ大正時代のように明治以降の歴史には新聞や書籍、統計など手に入る各種の資料があるが、その中で何をどのように使っていくかによって、生徒のその時代に対するイメージが変わってしまうことが多いので、授業者がどのように資料を扱うかが大きな課題だと思う。

D 学習指導案（第4時）

ア 主 題 「普通選挙制の実現」

イ 本時のねらい 大衆の成長が政治への意識を高め、普通選挙を実現させたことを理解させる。

ウ 本時の展開

| | 学習内容 | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 | 資 料 |
|------------------------|--|---|---|------------------------------------|
| 導 入 10 分 | 良い政治とは どんな政治か | 1 10万人集会の写真 を見たり、尾崎行雄の 演説テープを聞いて、 良い政治とはどんな政 治なのかを班で話し合 って代表が発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> • 民衆が良い政治を求め、そ れを実現させるためには普 通選挙が必要であったこと に気付かせる。 • 藩閥の桂内閣が50日余り で倒されたことにも触れる。 | 10万人集会 の写真 尾崎行雄の演 説テープ |
| 展 開 30 分 | ○民本主義 ○政党内閣の 誕生 ○普通選挙法 の実現 | <p>2 民本主義の広まりが普 選運動の論理的背景にな っていたことを学習する。</p> <p>3 ① 政党政治の意味 とその意義を学習 する。</p> <p>② 原内閣と伊藤内 閣の閣僚表を比べ、 分かったことを発 表する。</p> <p>4 ① 原内閣以降、政 党内閣が跡絶え第 二次護憲運動が起 きたことを学ぶ。</p> <p>② 加藤高明内閣が 普通選挙法を実現さ せたことを学習する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 民本主義については深入り しない。 • 民意を実現させるためには 政党政治が不可欠であった こと、原内閣が本格的な政 党内閣であったことを理解 させる。 • 平民宰相と期待された原敬 が普通選挙には反対であり、 それが理由で殺害されたこ とも触れておく。 • 社会運動や普通選挙運動の 高まりを背景としておさえ ておく。 | 伊藤、原内閣 の閣僚表 原敬殺害新聞 記事 |
| ま と め 10 分 | 普通選挙法に よって政治は どう変化する か | 5 有権者数の増加によ って政治がどう変化し たかを考え発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> • 民衆の要求が実現できる制 度であったことをとらえさ せる。 | 選挙法変遷表 |

エ 評 価

(ア) 政党政治や普通選挙制の実現までの流れ、意義について理解できたか。

(イ) 大衆の成長が、普通選挙制の実現へとつながったことが理解できたか。

E 学習指導案（第5時）

ア 主題 「大正デモクラシーの意義」

イ 本時のねらい

- (ア) 第1時から第4時の政治・経済・文化の動きをまとめ、大正デモクラシーの背景とその意義を考えさせる。
- (イ) 普通選挙法とともに治安維持法が制定されたことを中心に、大正デモクラシーの限界に気付かせる。
- (ウ) 大正時代の人々の生活や意識・行動について、現代との共通点・相違点を考えさせ、大正時代についての理解を深めさせる。

ウ 本時の展開

| | 学習内容 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 | 資 料 |
|------------------------|--------------------|--|--|----------------------------------|
| 導 入 5 分 | 大正時代 | 1 第4時までの学習で学んだことをあげる。 | • おもな事件・文化などに注目させ、時代の流れをつかませる。 | |
| 展 開 25 分 | ○大正デモクラシーの背景、意義、限界 | 2 政治・経済・文化の動きや、大正デモクラシーの意義をワークシートに記入し、発表する。 3 治安維持法のねらい、社会主義者弾圧の理由を考える。 | • ワークシートの確認の際、関東大震災時の朝鮮人・社会主義虐殺や治安維持法については、資料を示し、大正デモクラシーの限界にも気付かせる。 | ○ 関東大震災の写真パネル 新聞記事 ○ 治安維持法 |
| ま と め 20 分 | 大正時代の人々の生活と政治 | 4 現代と比較して大正時代の人々の生活や時代像を描く。 | • 5時間の学習のまとめとして行い、自由に書かせる。 | |

エ 評 価

- (ア) 大正時代の政治・経済・文化の動きを大きくつかみ、大正デモクラシーの背景とその意義や限界が理解できたか。
- (イ) 大正時代の人々の生活や意識・行動について理解が深められたか。

4 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

歴史的分野の分科会では「生徒の興味、関心を高め意欲的な学習活動を促す指導内容の構成と指導方法の工夫」を主題として研究を進め、次の点を明らかにすることができた。

ア 政治、経済、社会の動きという、その時代の全体像を生徒が分かりやすく理解するために文化の学習から入る形に単元を再構成する試みは効果的である。1、2校時の文化、人々の生活の学習を通して、生徒は時代の全体的な動きや人々の願いをよく理解し学習意欲を高めていった。特に、大正時代は生徒にとって身近な生活文化が現われた時代でもあり、理解が難しい大正デモクラシーの内容を学習するうえで適切であったと考える。一つの時代を学習するときに、生徒が自分なりに時代のイメージをもつことは、意欲や理解度を大きく高めることになる。

イ 視聴覚教材や身近な素材を活用することは、生徒の意欲を高め、興味・関心をもたせるのに有効である。大正時代は映画のビデオや写真、新聞、ラジオなどの資料が豊富で様々な活用をすることができたが、その中で生徒の関心をより集めたものは五感に訴えかけた教材である。また、予備知識なしでまず教材に触れさせることで、生徒のより多様な興味や意見を引き出すことができた。

(2) 今後の課題

ア 時代像を示す文化の学習を先に行うことによって得られた生徒の関心や意欲を、その後の学習の展開のなかで生かす工夫をしたが、生徒にとって、文化に比べて政治や経済などの内容は難しい面がある。生徒の意欲をどう持続させていくか、教材や導入の工夫など、今後も検討を重ねていく必要がある。

イ 大正時代は現代につながる身近な時代であり教材となる資料は豊富である。生徒の実態を把握し、地域の特色を生かしながら、それらを授業のなかでいかに精選して活用するかは今後の大きな課題である。また、この精選の問題はどの時代にも共通するものであり、文化を先に学習するときには特に大切なことである。

ウ 文化を先に学習するという指導内容を構成したが、この手法は大正以外の各時代にも通用するものとする。その時代の文化や社会の動きのどの面に焦点を当てるかにより様々な方法をとることができる。それだけに教師の側も、時代像の把握や教材の準備などに多くの努力をとる必要があるが、その上に立って各時代における指導内容の再構成や指導方法の工夫を行うことは、生徒の意欲や関心を高める方法として有効であり、一層の研究が必要である。